

幾徳祭

text YOUSUKE SUZUKI

photo TOMOKAZU MURAKAMI, TAKEHIRO SAKAI

今年も本学で34回目となる幾徳祭が2日間にわたり行われ無事に終わった。第34回の幾徳祭。今年のテーマは『祭盛』で、これまで以上に祭りを盛り上げる意味の『最盛』と、キャンパス再開発計画による新しい学内環境の中で行われるという『再生』の2つの意味が込められている。



賑わう幾徳祭

今年はキャンパス再開発により中央緑地公園が出来た。その中央緑地公園を使い、昨年よりゆったりとした空間で模擬店が出されていた。また、昨年の幾徳祭は2日間ともあいにくの雨に見舞われたが、今年は打って変わって2日間とも快晴となった。



▶ 昨年に引き続きアーチェリーの体験を行った洋弓部。部員が打ち方などを優しく教えており、アーチェリーの魅力を伝えていた。



▶ 模擬店の一つ、焼き鳥屋。このほかにも当日はさまざまな飲食系の模擬店も参加しており、来場者の食欲を駆り立てていた。



▶ 当日は一般来場者、在校生、卒業生を含め多くの人を訪れていた。来場者は模擬店や展示で幾徳祭を楽しんでいた。

◀ ロボット工学研究部ではロボットの操作体験と大会で使用したロボットの展示を行っていた。操作体験では部員が操作を手伝い、訪れた来場者を楽しませた。



◀ 釣り部による金魚釣りは子ども達に大人気だった。金魚が針を飲むなどをしても部員がしっかりとサポートしていた。またそれ以外にも、釣り竿や魚の展示も行っていた。



◀ 写真部による展示会は、ゆったりとした空間のなかで写真を鑑賞する事ができた。展示されている写真は全てモノクロで、普段見慣れない写真が来場者の目を奪っていた。



二日間にわたる幾徳祭

今年も各部などが模擬店を出し、その数は全店合わせて32店という多さだ。模擬店にはたこ焼き、焼きそば、フライドポテト、焼き鳥などさまざまなものが用意されており、焼きそば、たこ焼きは店の数も多かったが、どの店も味やトッピング、量などで自分たち独自の特徴を見せていた。模擬店の熱気により学内に入ってから賑わいはお祭りそのものだった。また、1日目と2日目にそれぞれイベントを催しており、パフォーミング・コンテストやビンゴ、くじ引きなどがあり来場者は多数参加していた。

各団体も模擬店だけではなく、B5号館、K1号館、K2号館などを使い自分たちの活動について展示、披露をしていた。アニメーション研究部のアフレコ体験や洋弓部のアーチェリー体験といった体験企画や、メインステージでのチアダンス部のダンスは学外からの一般来場者にはとても人気があった。展示物も各部来場者の人が楽しめるように、天文学部のプラネタリウムといった手に込んだものを用意しており、大人から子どもまでとても多くの人が訪れていた。また、幾徳祭では各学科の研究室もさまざまな展示物などを用意しており、C6号館で行われた応用バイオ科学科の発酵食品の展示と利き酒は大人の方を楽しませていた。

今年の幾徳祭は快晴にも恵まれ多くの来場者が訪れた。今年のように学園祭実行委員や各団体が丸となって、来年の第35回幾徳祭も大盛況させてもらいたい。